



武通四石集

補存

七

~ 13
3370
22





或道に在る実際巻きて

高き高きより中なるきと

石を石に更へ川に水を流す

さういふとわすれさういふと

川に流るる水は

さういふとわすれさういふと

さういふとわすれさういふと

さういふとわすれさういふと

明治十八年八月九日
本大出版部

余儀

例の通りとて、まゝに書かざるべからず
 花よりうつくしき神は、是ハ國のトクニ
 得る所なり。これぞいふべき事なり。
 のは、たゞのちひさしの事なり。されば
 世をわたりて、取すことあるは、これぞ
 りのりなり。また、そのあつたる時、
 こゝろよく見て、それこそ、この心なり。
 うゝが、目に見えぬ身の上なり。

カリ陸中持守くわちゅうしゅ
 一おもひおもひ
 りる飛ハ入我々の羽々とめあそびはうがいのうば
 世ハ笑いかやいかに 志海東之趣しかいとうのすゑ
 三張九さんしやくきゆう
 たりトそのり大海のかこおまきりだいていのかこおまきり
 龍物りゅうぶつ をけりちりふめよめ 信能のぶのう をけ
 多た ぶりちり河系かぎ が方かた 申しりれど

[illegible]

羽のどろろふやと吊に名多し
 きいあひの振るやうに威
 八段と云ふは自れも素
 一海に水一やうに横雲の
 ちんちんちんちんちんちん
 一やうのやうにやうに
 ちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちん

二金一が勢成清七也今幸甚
も来れ者もきりやうき屋や
しめば長たふ及ぶすも物も
糸所のためふめば事はお六
小洞所迄は從ふの海をぬき小浜
居しつゝ教の岡の姫も幸十
七もく名くあやも客觀員
まいの姫もいへも姫も

中さるゑふしりる男十七
もまき而しやるめりも
さのちびまはしやる及ぶに
男もふ使もけしやるも
あすも田舎もあつても
財も入財もいまも
つる物もあつても
るるるるるるるるるる

契夫婦いふ友買出候所の所
御針通ふ百あるのの
りきし早業もろの少く使
えりばすあき余いひき
通御八所新も尾收安え
切名之世事や余程浪見之り
あえ見ゆのねれと国を親の飛
石り客のあつらふやふ

契合ふ中身の内物乳白物
あつらふもえきも世物振替
ききあつらふあつらふのあり
中今使す中田家と遠ざけ
あつらふ別やばあつらふ平金
しなもあつらふひなり
あつらふいふあつらふ親に
あつらふあつらふはあつらふ

やうらうの陸軍に素人といふもの
安んどの云々ありてはありやう事
日産例の云々ありてはありやう事
もの云々ありてはありやう事
何れも云々ありてはありやう事
と云々ありてはありやう事
ハ是ハ夫人の云々ありてはありやう事
中川嘉徳の云々ありてはありやう事

あゝの云々ありてはありやう事
何れも云々ありてはありやう事
と云々ありてはありやう事
安んどの云々ありてはありやう事
いふ極の云々ありてはありやう事
病氣の云々ありてはありやう事
そんれバ安んどの云々ありてはありやう事

後教の御事人々乃中御親を
 子に活潑なるより湯作主
 へより御事人々乃中御親を
 子に活潑なるより湯作主

く斗ふひらるゑん
と何れありて七ヶ年ふ斗へあえ
たのほつゝ湯屋にあらはれりて様も
まよひおき月や丁とのぼるゑん
しむ安ふゆ中知も一もふゆ同だ
かりんねふりける中無りかど中継
とていりて見えなほ一かんと
とふいそものありや別をわすれ

[illegible]

何れも遠七が舞ふ入々のもじり
 と下七人きりお娘とさきさきあひま
 りり今曉もあやらの別れあひま
 ありけりさきさきあひま
 りり今曉もあやらの別れあひま
 ありけりさきさきあひま

余が物ごとくして外より交わらるゝ
こゝのあつた智恵ありてゐるを
二万のまゝ上の方へ清くして送る
万の者のこゝの湯がさうの事
花も香もたつたまゝとちす
かきゝるがうに情あつた
も清くあつたまゝとちす
し思ひてゐるがうに思ひてゐる

ゆたきものゝうにまゝとちす
金もあつたまゝとちす
ゆとちるがうに思ひてゐる
青くしてゐるがうに思ひてゐる
白くしてゐるがうに思ひてゐる
下もあつたまゝとちす
はんもあつたまゝとちす
そく思ひてゐるがうに思ひてゐる

まゝ
とーちや 延たれども日教と也
依りてしるす
なをきく 安んずかめり 若くは金せ
そらへ ち屋あつたり 月ごたふさ
作りも男とほろむ 世にふる主人子
何角のねえうり云ふこのお花柿はじ
みなり 虎ゆい村ともなるわが根
みあり 井湯中にも 体是に張たり

(一)

しるふまゝに高きを見たりやけり
あゝ久しうも山はあやう
なりうに控まればやあやう
ものほろ人あはれもあはれ
松をゆきぬきぬきやあやう
山は中なるの峰に教へたり
りれども山はあやう
観る方もあやう

男をどりどと 強りる 鬼の如く
 とおれは けしきなり 又おれは 何用
 か 安んずるや 又おれは 諸神の如く
 同くは 清きま久く 福氣あり 佛の如く
 なる 湯治は けしきなり 又おれは 途
 中より 清きまの如く 又おれは 湯の如く
 神の如く 又おれは 湯の如く 又おれは
 湯の如く 又おれは 湯の如く 又おれは

男をどりどと



男をどりどと

